

実践報告 No. 1

学校の教育活動全体を通じた道德教育の実践

－ マイクロインサーションを活用した各教科・科目等の特質に応じた道德教育 －

愛知県立岡崎工業高等学校 教諭 五十嵐崇文

1 はじめに

平成21年3月に告示された高等学校学習指導要領では、学校の教育活動全体を通じて発達段階に応じた道德教育に取り組むことが示された。ことに、高等学校においては、生徒の発達の段階に対応した指導の工夫が求められることや小・中学校と異なり道德の時間が設けられていないこともあって、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の指導のための配慮が特に必要とされる。

このため、高等学校における道德教育の考え方として示されているのが、人間としての在り方生き方に関する教育であり、各教科・科目等の特質に応じた学校の教育活動全体を通じて、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行うものとしている。本校では平成24年度から、各教科・科目等の特質に応じた道德教育の実践として、マイクロインサーション（注1）を授業に採り入れている。この報告では、マイクロインサーションを活用した道德授業案の作成を中心に、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の導入から、道德教育の全体計画の見直し等、これまでに本校で取り組んできた道德教育の実践について報告する。

注1 マイクロインサーション

各科目の授業内容の中に、特定の内容を埋め込む手法。ここでは、各科目の授業内容の中に、道徳的な話題を埋め込むことを言う。毎時間行う必要はない。

2 生徒の実態

本校は、徳川家康公が生誕し、江戸幕府の礎を築いた三河武士発祥の地「岡崎」の南部に位置し、平成24年に創立百周年を迎えた工業高校である。全日制は、機械科、機械デザイン科、電気科、情報技術科、土木科、化学工業科の6学科、定時制は、機械科が設置されている。

本校では、人づくり教育として、儒教道德の五常（仁・義・礼・智・信）を根幹とし、礼節を重んじ、自らを律し、他とともにこころ豊かな生活を築く態度を養う中で、国家社会の有為な形成者としての工業技術者の育成を目指している。平成19年度からの3年間は、文部科学省と経済産業省の共同事業である「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」の指定を受け、地元産業界との交流を深めるとともに、本校生徒の技術・技能の高さを示すことができた。その結果、指定事業終了後も、地元産業界からの強い要望により、岡崎商工会議所が中心となり、「岡崎地区ものづくり基盤人材育成事業」として前事業を発展させる形で連携事業を継続させている。

また、全国工業高等学校長協会主催のジュニアマイスター顕彰制度では、平成20年度に全国10位となったのを最高位に、近年上位校の常連となっている。

生徒は地元「岡崎・幸田」地区出身者が多く、卒業後は地元企業に就職する者が多い。このため、中学校からは就職に強い高校として大きな信頼を得ている。

3 実践の経緯

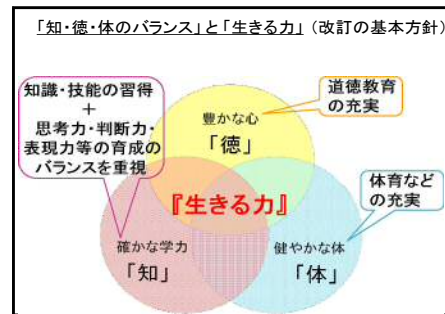
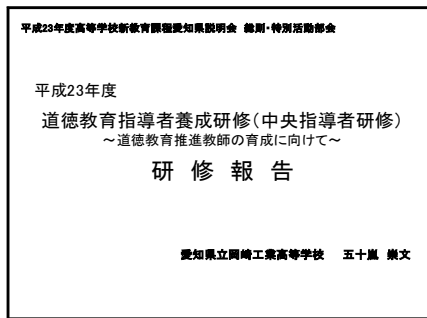
(1) 平成23年度の実践

ア 実践のねらい

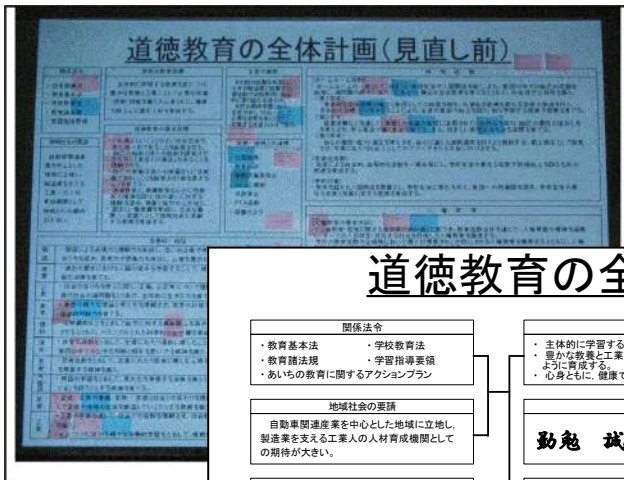
学校の教育活動全体を通じた道徳教育を導入するために、道徳教育に対する教職員の意識の高揚を図る。

イ 実践の内容

(ア) 校内現職研修にて、報告者が参加した道徳教育指導者中央研修の伝達講習を行った。



(イ) 一部の教職員により、道徳教育の全体計画の見直しを行った。



(2) 平成24年度の実践

ア 実践のねらい

マイクロインサーションを活用した授業実践を導入するために、マイクロインサーションに対する教職員の理解を深める。

イ 実践の内容

(ア) 初任者研修と5年経験者研修を兼ねて、有志によるマイクロインサーションを活用した授業案の作成を中心に、計3回の勉強会を開催した。

第1回（平成24年10月11日 参加者14名）

- 道德教育につながる授業内容の洗い出しを行った。
- グループワークトレーニングとして、道德教育指導参考資料『明日を拓く』第2章 教材編 第3節 社会と関わる の「〇〇高校を紹介しよう」（注2）を教職員バージョンとして行った。言語活動を通じた授業改善の手法として、ブレイン・ストーミング（注3）とKJ法（注4）についても学んだ。
- キャリア教育について、疑問点を挙げることを次回までの課題とした。

注2 「〇〇高校を紹介しよう」

学校には、それぞれ長い間に培われた独自の校風や伝統がある。生徒が自校を紹介するという試みを通して、学校の特色や魅力を再認識することで、学校に愛着や誇りをもたせ、学校の一員としての自覚を高めさせるためのグループワークトレーニング。

注3 ブレイン・ストーミング

集団（小グループ）によるアイデア発想法の一つで、会議の参加メンバー各自が自由奔放にアイデアを出し合い、互いの発想の異質さを利用して、連想を行うことによって、更に多数のアイデアを生み出そうという集団思考法・発想法のこと。その背景には「本人にとってはつまらないアイデアに思えても、他の出席者には別の素晴らしいアイデアをひらめかせるかもしれない」という考えがあり、自由な発想でアイデアを生み出すことで、他のメンバーの頭脳に刺激を与えることを狙う。「ブレイン（頭脳）で問題にストーム（突撃）すること」＝Brain Storming として、このように呼ばれる。省略して、「ブレスト」、「BS」などともいう。

注4 KJ法

無秩序で雑然とした定性データ（事実、意見、アイデア）群を一旦カードや付箋紙などに分解し、これを人間の直観力を用いて図解・文章に統合することで、意味や構造を読み取り、まとめていく方法及び思想の体系。漠然としてつかみどころのない問題を明確にしたり、思いもしない解決策・新しい発想を得たりするために用いられる。個人の思考と集団のそれをほとんど区別しないため、個人の発想技法としてだけではなく、複数の人間による共同作業、合意形成などにも使われる。

第2回（平成24年12月3日 参加者19名）

- 道徳教育につながる授業内容の洗い出しを行った。
- グループワークトレーニングとして、道徳教育指導参考資料『明日を拓く』第2章 教材編 第1節 自己をみつめる の「見てはいけない手紙」（注5）を、二人一組でそれぞれA子、B子の立場になって体験した。その後、4～6名のグループで生徒の気持ちを推測するなどのディスカッションを行い、生徒から相談された場合の各自の立場に応じた具体的な対応について考えることを次回までの課題とした。
- キャリア教育について、前回の課題であるキャリア教育の疑問点を集約した。

注5 「見てはいけない手紙」

部室に落ちていた手紙を何気なく読んでしまったA子。手紙はC子からB子へ宛てたもので、内容は試合のメンバーからA子を外そうとするものであった。A子は何も見なかったふりをして手紙を落ちていた場所に戻した。翌日、B子はその手紙を拾って読んだ。

複数の行動の選択肢があり、どれも正しく思われ、判断や選択に悩むことがある。A子とB子それぞれの立場でどのような行動をとるかを考えさせ、自明のこととしていた価値観の問い直しにせまるためのグループワークトレーニング。

第3回（平成25年1月7日 参加者11名）

- 初任者が作成中の学習指導案を題材にして、マイクロインサクションを活用した授業案を参加者全員でよりよいものに仕上げた。

【修正前の授業案】

【教科・科目名：工業（土木）・土木基礎力学】			
【作成者：〇〇〇〇】			
実施学年	2年	実施時期	11月
主 題 名	安全第一		
内容項目	4-(5) 勤労		
資 料 名	『土木基礎力学1』（実教出版）		
ね ら い	【教科的視点】 設計上、材料に生じる応力を、ある一定限度以下に制限する重要性を理解させる。また、各種材料の安全率を理解させる。 【道徳的視点】 建設現場で必ず安全第一の標識を目にする。これは職場において作業者の安全が何よりも優先されるというスローガンである。品質や生産よりも安全が優先されることを理解させる。		
展開の概要	学 習 活 動		指 導 上 の 注 意 点
	導 入	許容応力度、安全率について理解する。	部材が破断しないよう、部材に生じる応力を一定限度以下に制限する必要があることを説明する。
	展 開	教科書 P135 の例題 3 を解く。 問 4、問 5 を解く。	例題 3 を用いて、計算問題を解説する。 生徒自身に問題を解かせて、解答、解説をする。 生徒の理解度を確認する。
	終 結	各種材料の許容応力度、安全率を定める意義を理解する。	構造物の設計に際し、応力に許容応力度を設ける意味を理解させ、安全率の概念を定着させる。
評 価		評 価 の 方 法	
【教科的視点】 許容応力度、安全率を理解し、実際に使うことができる。 【道徳的視点】 安全ということがすべてにおいて優先されることを理解できる。		【教科的視点】 練習問題を解かせて評価する。 【道徳的視点】 授業中の発言によって評価する。	
他の教育活動との関連		授業の反省・感想・課題	
実習にて危機管理や安全に作業することを学ぶ。			

【修正後の授業案】

【教科・科目名 : 工業 (土木)・土木基礎力学】			
【作成者 : ○○ ○○】			
実施学年	2年	実施時期	11月
主 題 名	安全+第一 — 余裕無くして安全はあり得ない —		
内容項目	1-(1)基本的な生活習慣 2-(3)信頼・友情		
資 料 名	『土木基礎力学1』(実教出版)		
ねらい	【教科的視点】 設計上, 材料に生じる応力を, ある一定限度以下に制限する重要性を理解させる。また, 各種材料の安全率を理解させる。 【道徳的視点】 日頃の生活習慣に, 安全率=余裕をもった行動, ということ当てはめ, 提出物の期限や集合時間に余裕をもった行動をすることが大切であることを理解させる。		
展開の概要	学 習 活 動		指導上の注意点
	導 入	許容応力度, 安全率について理解する。	部材が破断しないよう, 部材に生じる応力を一定限度以下に制限する必要があることを説明する。
	展 開	教科書 P135 の例題 3 を解く。 例題 3 を参考に, 問 4, 問 5 を解く。	机間指導をして, 生徒の理解度を確認する。 生徒自身に問題を解かせて, 解答, 解説をする。 生徒の理解度を確認する。
	終 結	各種材料の許容応力度, 安全率を定める意義を理解する。	構造物の設計に際し, 応力に許容応力度を設ける意味を理解させ, 安全率の概念を定着させる。
評 価		評 価 の 方 法	
【教科的視点】 許容応力度, 安全率を理解し, 実際に使うことができる。 【道徳的視点】 日常生活の中でも余裕をもった行動が大切であることが理解できる。		【教科的視点】 練習問題を解かせて評価する。 【道徳的視点】 授業中の発言によって評価する。	
他の教育活動との関連		授業の反省・感想・課題	
実習にて危機管理や安全に作業することを学ぶ。		安全という項目で, 工業的な発送に偏りすぎてしまった。授業の中だけの指導ではなく, 日頃の生活の中でも指導できる内容を考えるべきであった。	

- グループワークトレーニングとして, 道徳教育指導参考資料『明日を拓く』第2章 教材編 第1節 自己をみつめる の「見てはいけない手紙」の前の課題である, 生徒から相談された場合の各自の立場に応じた具体的な対応について, 個々に発表した。
- キャリア教育について, 前回集約したキャリア教育の疑問点に関わり各自が調べてきた内容をプリントにて配付した。
- (イ) 平成23年度の道徳教育の全体計画の見直しに参加した教職員の多くが, マイクロインサーションを活用した授業案を作成したため, 平成23年度とは異なるメンバーで道徳教育の全体計画の見直しを行った。

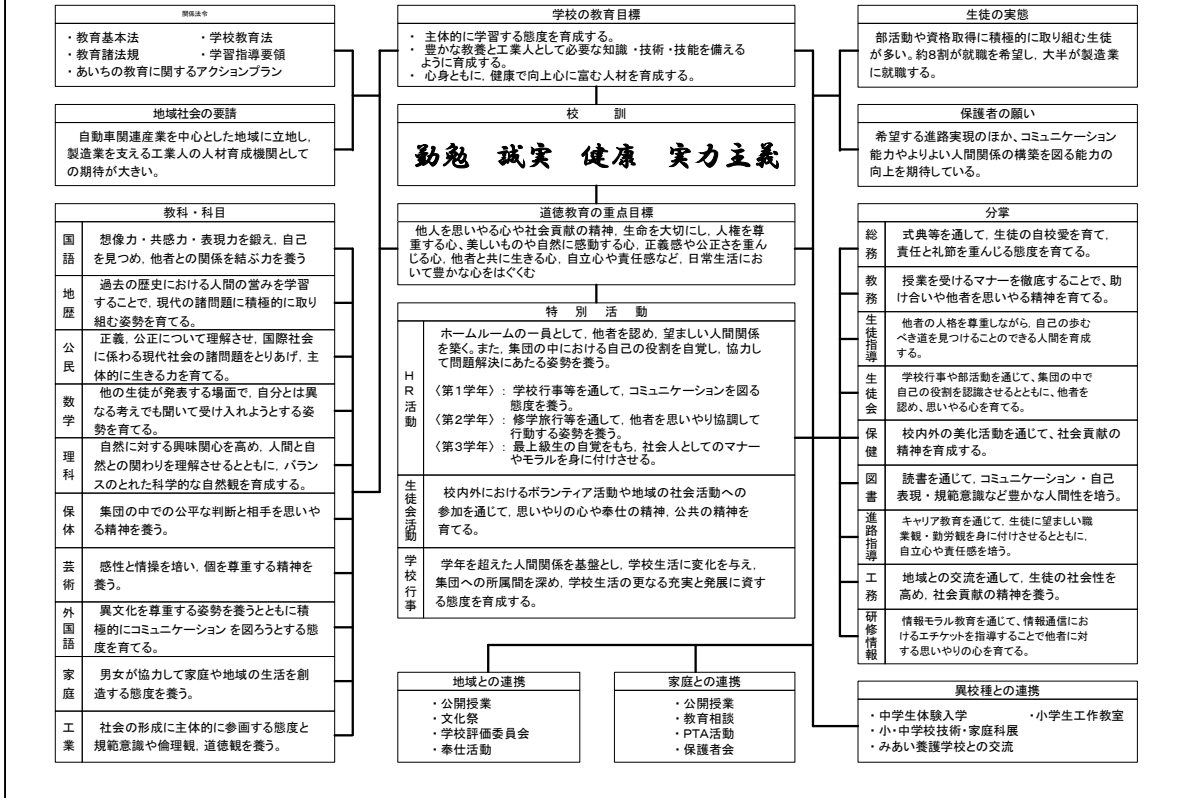


【K J法を用いたグループワークの様子】

道徳教育の全体計画の見直し作業参加者	
平成23年度	平成24年度
教師A(国語・図書)	教師N(国語・教務) 転任者
教師B(社会・教務)	教師O(社会・教務) 転任者
教師C(数学・研修)	教師P(数学・多)
教師D(理科・総務)	教師Q(家庭・生指)
教師E(英語・保健・相談)	教師R(家庭・生指)
教師F(保健・相談)	教師S(機械・生指) 初任者
教師G(数学・1年・工務)	教師T(機テ・工務) 5年経験者
教師J(電気・進路)	教師U(電気・2年) 5年経験者
教師K(情報・生徒会)	教師V(情報・研修)
教師L(土木・2年)	教師W(土木・生徒会) 初任者
教師M(化学・教頭)	教師X(化学・1年) 5年経験者
五十嵐(電気・生指)	教師Y(化学・進路) 初任者

教職員84名のうち, 25名が道徳教育の全体計画の見直しを経験 (平成24年度)

道徳教育の全体計画(見直し前)



道徳教育の全体計画(見直し後)



(3) 平成25年度の実践

ア 実践のねらい

- (ア) 初任者の道德教育に対する意識の高揚を図るとともに、マイクロインサージョンを活用した授業案の作成に対する理解を深める。
- (イ) 学校行事等においても道德教育の観点を取り入れることにより、教育活動全体を通じて道德教育を行うことに対する教職員の意識の高揚を図る。

イ 実践の内容

- (ア) 平成25年度の初任者の研究授業の内容に、自己の基本的な生活習慣並びに他者への思いやりの道徳的内容が含まれていたため、マイクロインサージョンを活用した授業案を作成した。

学 習 指 導 案							
				教科指導員 教諭 ○○ ○○			
				指 導 者 教諭 ○○ ○○			
1	日 時	平成25年6月26日(水) 第6限					
2	学 級	電気情報技術科1年B組					
3	場 所	教室					
4	科 目	保健体育(保健)					
5	指導教科書	現代高等 保健体育(大修館書店)					
6	副 材 料	現代高等 保健体育ノート(大修館書店)					
7	指導単元	現代社会と健康(生活習慣病とその予防)					
8	単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択して実践し、自らの健康をコントロールし、改善することが重要であることを理解する。 ・具体的な生活習慣病の例を挙げ、説明できるようにする。 ・日常の生活習慣について確認し、自分の生活習慣を見つめ直す。 					
9	本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な生活習慣病の例を挙げ、説明できるようにする。 ・日常の生活習慣について確認し、自分の生活習慣を見つめ直す。 					
10	学習指導案						
段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点			
				関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解
導入	始業の挨拶	始業の挨拶を行う。 ・ ・	身だしなみを確認し、挨拶させる。 ・ ・				○
展開	生活習慣病について	教科書P16「①生活習慣病とは」を読む。 ・ ・ 図1を確認する。	成人病と呼ばれてきた経緯と、生活習慣病と言われるようになった経緯を説明する。 ・ がんと原因の6割が喫煙と食事によるものだと確認させる。				○
	生活習慣病の予防について	教科書P17「②生活習慣病の予防」を読む。 自分の食生活でいけないと思う点を二つ見つける。 メタボリックシンドロームについて理解する。 ノートのP10の確認問題に取り組む。	一次予防と二次予防について理解させる。 自分や他人の生活習慣を振り返り、健康的な生活習慣を選択し、実践していく大切さを伝える。 メタボリックシンドロームの診断基準と対策について説明する。 分からない問題があれば、質問させる。	○			
終	本時のまとめ	本時の内容を振り返る。 ・ ・	教科書を開いていることを確認し、話を聞く姿勢をとらせる。 ・ ・				
結	次回の予告	次回の学習内容を知る。	テスト範囲を伝える。				
	終業の挨拶	終業の挨拶を行う。	身だしなみを確認し、挨拶させる。				
11	ご高評						

【学習指導案を基に作成した授業案】

【教科・科目名 : 保健体育・保健】		
【作成者 : ○○ ○○】		
実施学年	1年	実施時期 6月
主題名	生活習慣（食生活）について考えよう	
内容項目	1-(1)基本的な生活習慣 2-(2)人間愛・思いやり	
資料名	『現代高等保健体育』（大修館書店）	
ねらい	<p>【教科的視点】</p> <p>自分の生活習慣を改めて見直すことにより、問題点を発見させ、改善することができるようにする。また、生活習慣の問題点を他者に相談することにより、新たな改善策に気付かせる。</p> <p>【道徳的視点】</p> <p>自分の生活習慣を改善することにより基本的な生活習慣を身に付けさせる。また、他者の問題点に際し、改善策を考えさせることにより、相手への思いやりの気持ちを意識させる。</p>	
展開の概要	学 習 活 動	
	導入	<p>生活習慣（ここでは食生活について）を見直す。</p> <p>問題点をプリントに記入する。</p>
	展開	<p>自分の問題点について改善策を考え、プリントに記入する。</p> <p>プリントを隣と交換し、相手の問題点について、改善策を考え、記入する。</p>
	閉結	<p>互いに考えた改善策について、相手に分かりやすく伝える。</p>
	指導上の注意点	
	<p>自分の問題点について、具体的にプリントに記入するように伝える。</p>	<p>実現可能な改善策を考えさせる。</p> <p>相手のことを考え、効果的で実現可能な改善策を考えさせる。</p>
	<p>自分のことを思い、改善策を考えていることを理解させる。</p>	
評 価		評 価 の 方 法
<p>【教科的視点】</p> <p>問題点について効果的な改善策を考えることができる。</p> <p>【道徳的視点】</p> <p>相手のことを思いやり、改善策を考えることができる。</p>		<p>【教科的視点】</p> <p>プリントにしっかり記入できているかによって評価する。</p> <p>【道徳的視点】</p> <p>相手のことをしっかり考えて改善策を記入できているかプリントで評価する。</p>
他の教育活動との関連		授業の反省・感想・課題
家庭科や体育等で、生活習慣や健康増進について考えを深める。		相手に考えた改善策を説明する時間を多く取れなかった。また、全体に発表させ、意見交換を行えばよかったですと思いました。

(イ) 職員会議等における学校行事等の提案時に、道徳教育の観点からの目的を併記することとした。

分掌提案事項 あるいは 活動内容	道徳の内容項目	離任式	入学式	始業式	生徒対面式	新入生オリエンテーション	HR役員	小学生登校ボランティア	球技大会	3年生進路ガイダンス	修学旅行	2年生進路懇談会	3年生進路懇談会	AED講習会	中学生体験入学	小学生ミニマイコンカー制作教室	防災訓練	体育大会	生徒会役員選挙立会演説会	生徒会役員離・就任式	岡崎市技術・家庭科展	生活安全講話	岡工祭	薬物乱用防止講話	卒業式	
		1 主として自分自身に関すること	(1) 基本的な生活習慣 節度 調和 (2) 希望・勇氣 強い意志 (3) 自主自律 誠実 責任 (4) 真理愛 理想の実現 (5) 向上心 個性伸長		◎																					
2 主として他の人とかかわりに関すること	(1) 礼儀 (2) 人間愛 思いやり (3) 信頼 友情 (4) 異性の理解 (5) 立場の理解 寛容 謙虚 (6) 尊敬 感謝	◎		◎	◎																					
3 主として自然や崇高なものとかかわりに関すること	(1) 生命尊重 (2) 自然愛 畏敬の念 (3) 弱さの克服 生きる喜び																									
4 主として集団や社会とかかわりに関すること	(1) 法の遵守 権利義務 (2) 公徳心 社会連帯 (3) 正義 公正公平 (4) 役割と責任の自覚 (5) 勤労 奉仕 公共の福祉 (6) 家族愛 (7) 愛校心 (8) 郷土愛 (9) 愛国心 (10) 国際理解 人類愛		◎	◎																						

(4) 平成26年度の実践

ア 実践のねらい

初任者の道徳教育に対する意識の高揚を図るとともに、マイクロインサーションを活用した授業案の作成に対する理解を深める。

イ 実践の内容

平成26年度の初任者の研究授業の内容に、礼儀並びに役割と責任の自覚の道徳的内容が含まれていたため、マイクロインサーションを活用した授業案を作成した。

学 習 指 導 案		教科指導員 教諭 ○○ ○○														
		指 導 者 教諭 ○○ ○○														
1 日 時	平成26年10月3日(金) 第3時限															
2 学 級	土木科2年(男子 37名 女子 1名 計 38名)															
3 場 所	新土木棟 測量実習室															
4 科 目	土木施工															
5 指導教科書	土木施工(実教出版)															
6 副 教 材	自作ワークシート 振り返りシート															
7 単 元	第2章 土工 第2節 土工機械															
8 単元目標	土工機械の名称と特徴を学び、各種工事に合わせて機械を選定する。															
9 本時の位置	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">指導内容</th> <th style="width: 50%;">配当時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.2.1 作業の種類と土工機械</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>2.2.2 掘削運搬機械</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>2.2.3 掘削機械</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>2.2.4 積込機械</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>2.2.5 運搬機械</td> <td style="text-align: center;">1 (本時1/6)</td> </tr> <tr> <td>2.2.6 整地・締固め機械</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> </tbody> </table>	指導内容	配当時間	2.2.1 作業の種類と土工機械	1	2.2.2 掘削運搬機械	1	2.2.3 掘削機械	1	2.2.4 積込機械	1	2.2.5 運搬機械	1 (本時1/6)	2.2.6 整地・締固め機械	1	
指導内容	配当時間															
2.2.1 作業の種類と土工機械	1															
2.2.2 掘削運搬機械	1															
2.2.3 掘削機械	1															
2.2.4 積込機械	1															
2.2.5 運搬機械	1 (本時1/6)															
2.2.6 整地・締固め機械	1															
10 本時の指導	(1) 目 標 工事別に土工機械の種類や特徴について学び、興味をもたせる。															
	(2) 指導と展開															
過 程	指導内容	指導上の留意点														
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を提示する。 各種工事の土工機械についての名称や特徴をグループワークにより、知識を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に工種によってどのような機械が使用されているかを調べさせ、理解を深める。 														
展 開	<ul style="list-style-type: none"> グループワークを行う。 グループごとにグループワークを行わせ、発表のための準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 司会者を中心に、グループの全員が調べた事柄を報告し、書記が内容をプリントにまとめる。 グループワーク時、他のグループの迷惑にならないよう配慮しながら行うよう指示する。 各班のプリントは後日資料として共有させるため、丁寧な文字で、きれいに書かせる。 発表者の方を向くなど、聞く態度をとらせる。 														
終 結	<ul style="list-style-type: none"> 全員に発表する。 各班2～3分程度発表する。 本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートを記入させ、グループワークについての振り返りを行わせる。 工事別の土工機械について学ぶことで、どのような場面でどんな機械が使用されているか意識させ、興味をもたせるようにする。 														
11	ご高評															

【学習指導案を基に作成した授業案】

【教科・科目名 : 工業(土木)・土木施工】			
【作成者 : ○○ ○○】			
実施学年	2年	実施時期	10月
主 題 名	土工機械についてのグループワークによる言語活動の充実について		
内容項目	2-(1)礼儀 4-(4)役割と責任の自覚		
資 料 名	自作ワークシート, 振り返りシート		
ね ら い	【教科的視点】 グループワークを通して, 工事別に土工機械の種類や特徴について学び, 興味をもたせ, 理解を深めさせる。 【道徳的視点】 グループワークを通して, 自分の意見を自分の言葉で的確に相手へ伝えさせ, 相手の話を聞くときには相手の方を向き聞く態度をとらせる。また, 班の中で各自役割をもつことで, 責任をもって行動させる。各班の発表が終わったら, 必ず拍手をさせ, 発表者が気持ちよく終われるような環境にする。		
展開の概要	学 習 活 動		指導上の注意点
	導 入	各種工事の土工機械についての名称や特徴をグループワークにより, 知識を共有する。	実際に工種によってどのような機械が使用されているかを自分たちで調べることで, 理解を深めさせる。
	展 開	グループごとにグループワークを行わせ, 発表の準備をする。 全員の前に出て, スクリーンに土工機械を映しながら, 班でまとめたことを発表する。	調べた内容を的確に伝えられるよう工夫させる。 発表者は聞き手が聞きやすいように, 聞き手は発表者が話しやすいように, お互いの気持ちを考えさせる。
	終 結	工事別の土工機械を学ぶことで, どのような場面でどんな機械が使用されているか意識する。	振り返りシートを記入させる。発表時の工夫を凝らすことで, 土工機械への興味を高め, コミュニケーションのとり方も意識付ける。
評 価		評 価 の 方 法	
【教科的視点】 土工機械への興味関心ができ, 作業ごとに適する土工機械を判断できる。 【道徳的視点】 伝えたい思いを的確に相手に伝えられるか。また, 他者の気持ちを理解できるか。		【教科的視点】 機械の写真と機械名, 作業が一致するか。 【道徳的視点】 グループワークに積極的に参加しているか机間指導をしながら評価する。また, 発言中の声の大きさ, 態度で評価する。	
他の教育活動との関連		授業の反省・感想・課題	
グループワークを行うという点では, すべての教科と関連する。		クラスメートが発表することで, 土工機械に関する興味関心を高め, 知識を深めさせることができた。また, コミュニケーション能力を向上させることもできた。機会を増やし, 他の活動とも関連付け, 継続していきたい。	

4 実践のまとめと考察

(1) 道徳教育の全体計画の見直し

道徳教育の全体計画は生徒の発達段階に応じて見直しをされるべきものであるため, 毎年見直されるべきものである。また, 計画の実践という観点からもP D C Aサイクルに基づいて, 毎年見直しをするべきものである。その際, 道徳教育に対する教職員の意識の高揚を図る目的で, 全教職員で行うことが望ましいが, 本校では時間的な制約などにより, 平成23年度と24年度に, 一部の教職員で行うことしかできなかった。しかし, 平成24年度末の時点で, 2度の見直しに参加した教職員25名のうち, 15名が24のマイクロインサーションを活用した授業案を作成している。これは, 参加していない59名のうち, 16名が17の授業案を作成したことと比較すると, 見直しに参加した教職員の道徳教育に対する意識の高さを示すものと言える。

(2) マイクロインサーションを活用した授業案の作成

授業を行う前にマイクロインサーションを活用した授業案を作成することは、かなり困難なことと思われる。そこで、本校では学期末の成績会議等の際に、洗い出しという表現を用いて、担当する授業の中で道徳的な内容につながるものを振り返ってもらうようにした。それをマイクロインサーションを活用した授業案として作成し、全教職員が閲覧できるよう教職員用の校内ネットワークに掲載することとした。他教科の内容でも自分が担当する教科の内容につながるものも多く、マイクロインサーションを活用した授業案を作成する上で参考となったようである。

また、初任者研修や5年経験者研修における研究授業を参観すると、授業者が気付いていない道徳教育につながる内容を発見することがあった。こうした際、マイクロインサーションを活用した授業案を作成するよう助言した。授業者が見逃している道徳教育につながる内容は多いと思われる。機会あるごとに洗い出しを依頼することは、マイクロインサーションを活用した授業案の作成のみならず、教職員の道徳教育に対する意識の高揚を図る有効な手だてと考えられる。

(3) 道徳教育指導参考資料『明日を拓く』を活用したグループワークトレーニング

本校では、総合的な学習の時間を課題研究で代替しており、道徳教育指導参考資料『明日を拓く』を使用する時間はホームルームの時間に、担当者はホームルーム担任に限られてしまう。しかし、経験の浅い担任は、グループワークトレーニングの指導に不安を抱き『明日を拓く』を活用することに戸惑っているようであった。そこで、担任の指導力向上を目的として、勉強会にて『明日を拓く』を教職員バージョンとして使用した。これは『明日を拓く』が生徒の実情に合わせてアレンジしてもよいことを示すとともに、グループワークトレーニングを採り入れることで、勉強会を堅苦しいものとしないうちでもあった。その結果、勉強会の参加者からは、おおむね好評を得た。

(4) 学校行事等における道徳教育の実践

平成25年度から学校行事等においても道徳教育の観点を取り入れる目的で、職員会議等における学校行事等の提案時に、道徳教育の観点からの目的を併記することとした。現在では、ほとんどの提案事項に道徳教育の観点からの目的が併記されるようになった。これは、提案者の多くが分掌主任であり、道徳教育に対する意識が高いことを示している。しかし、実際に生徒を指導する担任あるいは係の教職員が、道徳教育の観点をもって生徒を指導しているかは、十分には把握できていない。学校行事を終えた際の教職員に対する反省・アンケートに、道徳教育の観点をもって業務に当たったかという項目を追加することで、次の学校行事の際に道徳教育の観点をもって業務に当たる意識を高揚させるのも一つの手だてと考えられる。

5 成果と課題

(1) 教職員の変容

教職員に対する学校評価アンケートには道徳教育に関する項目がないため、教職員の意識の変化などを示すことはできない。しかし、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を導入することでさまざまな成果が見られたので、次に示す。

- 学年会でL T時に『明日を拓く』を活用するようになった。
- 10年経験者研修該当者がL Tを利用し『明日を拓く』を使用して研究授業を行った。
- 学年集会などでの分掌主任の講話に道徳的な内容が多く含まれるようになった。
- 生徒会主催のボランティア活動に参加、協力する教職員が増えた。

- 学年会でキャリア教育に関する研究を行い、キャリア教育の全体計画の作成を試みている。
- 工業科目「工業技術英語」担当者会に英語科教員全員が出席し、支援・協力した。

(2) 学校評価アンケートに見る保護者の学校に対する評価（抜粋）

No.	質問項目	年 度				
		2 2	2 3	2 4	2 5	2 6
1	本校は充実した教育をしている と思いますか。	9 2	8 8	9 2	8 8	8 4
		9 0 . 0		8 8 . 0		
2	お子様は明るい学校生活を送って いると思いますか。	9 1	9 5	9 4	9 3	9 3
		9 3 . 0		9 3 . 3		
4	本校は地域から信頼されている学校、 開かれた学校であると思いますか。	8 0	7 6	8 6	8 0	8 5
		7 8 . 0		8 1 . 7		
5	教科指導では、基礎・基本から 確実に身につけていると思いますか。	7 7	7 0	8 0	8 1	7 3
		7 3 . 5		7 8 . 0		
6	お子様は入学当初と比べ、学力を 伸ばしていると思いますか。	6 0	6 3	7 3	6 5	6 3
		6 1 . 5		6 7 . 0		
7	お子様は入学当初と比べ、社会性を 身につけていると思いますか。	7 8	7 9	8 8	8 4	8 2
		7 8 . 5		8 4 . 7		

数値は肯定的回答[%] 下段は平均値

平成21年度以前は質問項目及びアンケート方法が若干異なるため、平成22年度以降のものを採用し、平成23年度の途中から学校の教育活動全体を通じた道徳教育を導入しているため、平成23年度以前の2年間と平成24年度以降の3年間の平均値をデータに加えている。なお、アンケートの方式は平成24年度のみ全数調査で、平成24年度以外は各クラス4名の保護者とPTA専門委員による抽出調査である。

質問項目は全部で15項目であるが、道徳教育を導入した成果につながる質問項目としてNo.4からNo.7を抜粋した。なお、アンケート対象保護者に著しい差異はないことを示すものとして、質問項目No.1とNo.2を表に加えた。質問項目No.4からNo.7以外では平成23年度以前と平成24年度以降の平均値で比較すると、平均0.86ポイントの上昇である。それに対し、質問項目No.4からNo.7では平成23年度以前と平成24年度以降で平均すると、5ポイント近く上昇している。この結果には、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を導入したこと以外にも、生徒指導、学習指導、地域連携事業などのさまざまな要因が影響していると考えられる。しかし、保護者も生徒の変化を感じ取っている様子は十分にうかがえる。

6 おわりに

本校は工業高校ということもあり、以前より工業科目の多くに技術者倫理の内容が盛り込まれていた。技術者倫理の根底にあるものは道徳心であり、日頃から技術者倫理を通じた道徳教育的指導をする機会には恵まれていた。すなわち、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を導入する環境はあったと言える。しかし、高等学校には道徳の時間はなく、加えて本校では総合的な学習の時間を課題研究で代替しているため、道徳教育を行う場面は限られていた。このため、まず初めに各教科・科目等の特質に応じた道徳教育の実践として、マイクロインサクションを活用した授業を導入したことが、比較的抵抗感なく学校の教育活動全体を通じた道徳教育の導入につながったと考えている。

また、本校では生徒の多くが卒業と同時に地元産業界に就職するため、入学時より充実したキャリア教育を行ってきた。平成23年11月に文部科学省より発行された『高等学校キャリア教育の手引き』にも、キャリア教育の教育課程における位置付けとして、道德教育との関連が示されている。これによれば、高等学校では、小・中学校における道德教育を踏まえつつ、道德教育をキャリア教育と組み合わせながら実践していく必要がある、とのことである。進路指導部主催の学校行事を中心として、キャリア教育に関する指導の場面は多く、既に道德教育の内容が含まれたものから、道德教育の内容を盛り込みやすいものが多い状況であったことも、学校の教育活動全体を通じた道德教育の導入につながったと考えている。

本実践報告は、学校の教育活動全体を通じた道德教育を導入しやすい環境にある工業高校におけるものであるが、道德教育「人間としての在り方生き方に関する教育」が全ての高等学校で求められている現在、今回の報告がその一助となることを願っている。

参考文献等

- 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成21年3月告示
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』平成21年11月
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』平成21年12月
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』平成21年12月
- 文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』平成23年11月
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道德編』平成20年9月
- 愛知県教育委員会『明日を拓く 一人間としての在り方生き方を求めてー』平成25年3月